



APARTMENT  
TOKUYOSHI GATE

This apartment that is designed by architect has a bright and comfortable courtyard. In the historical town, high quality and well-qualified houses are born.

# 徳吉迎人



建築写真：田中園子 \*印：畑勝明

## DESIGN WORKS

賃貸住宅 徳吉迎人／ブランドマーク、サイン、パンフレットデザイン  
空間のコミュニケーションが街を創る  
—— 良質な「住まい」は持続可能社会の原子 ——

田中雄一郎／グラフィックデザイナー、ブランディングディレクター

「居は気を移す」という孟子の言葉がある。住む場所や環境は人の心に大きな感化を与えるということだ。人には人間関係の問題や将来不安などの心理的なストレス以外に、音や明るさ、温度など環境の影響によるストレスがあり、生じるメカニズムはどちらも同じらしい。ストレスにより自律神経のバランスを崩すと、疲れが回復しにくくなったり、脳の働きが鈍って、理解力や判断力、コミュニケーション力などの機能が低下してしまうという。環境が要因のストレスは看過されることが多いのが現状だろう。人が住む場所（「住まい」という）は動物で例えると縄張り行動の一形態だという。快適な「縄張り」は外敵から身を守れ心身がリラックスできる場、家族や仲間と戯れる場、次の獲物を狙う戦略を立てられる場となる。快適な「住まい」は人間、動物に関わらず心理的安定をもたらし、能動的になれ、持続可能な社会に向けての原子となりうるものではなかろうか。

中庭のあるメゾネットタイプの賃貸住宅「徳吉迎人」のブランドマークやパンフレット、サインなどのビジュアルデザインを担当した。昨今高級車やブランドの腕時計を所有するのではなくレンタルで楽しむ、という価値観が広がっている。好き嫌いは別として、何事も上質な物に触れることは感性を磨く上ではとても大切なことだと思う。その感覚を「住まい」で体験してもらおうと計画されたのが「徳吉迎人」だ。その名が示すように、「人を迎えるゲート」の先には中庭があり、それを囲んで各戸が配置されている。メゾネット型なので天井が高く採光も豊富で戸建てのように暮らせる。賃貸住宅ながら一つ一つ職人が手作業で丁寧に作り上げたオーダーキッチンで照明も完備されている。「永住ではなく、その後の家づくりに向けて上質な空間を体験してもらいたい。快適で良質な住まいは人生を豊かにします。」という事業主の言葉。岡山市中区徳吉という文教の気風漂う歴史ある街並みに、「感化」を与えてくれる建築が誕生した。

ブランドマークは「Apartment」の「A」をモチーフに、人を迎える「GATE（門、入口）」、漢字の「人」と「入（人が入る）」や「家」のシルエットを表現した。また上向きの矢印は関係者の向上心、アーチ状のフォルムは新しい時代（価値観）へ橋渡しをイメージしている。カラーは落ち着いた良質な暮らしを想起させるベージュ系を選択した。建物や各部屋の表札にブランドマークのサインをあしらうことで、居

住者の建物に対する愛着や誇り、円滑なコミュニケーションを促す。建物を大切に思う居住者のその気持ちが良い住環境の構築につながり、ひいては周辺や街にも影響を及ぼすと考える。小さなことかもしれないがこうしたデザインの集積が街や景観を形成していると考えたと実に重要なことである。建築家・丹下健三は自著「建築と都市」の中で「空間の中でコミュニケーションがどのように行なわれ、どう流れるかということをかたちづけていく作業というのが、建築空間や都市空間の構造をつくることである。」と言っている。また「空間をコミュニケーションの場として考えなおさなければならない。」と続けた。つまり小さな空間で行われるコミュニケーションこそが重要であり、その集合体が建築や都市（町）を形成しているということであろう。グローバルな目標も大切だが、一人ひとりの心が安定すれば、社会全体

の安定につながるはずだ。「徳吉迎人」がそんな端緒になれば願う。お問合せは有限会社バルプラン (<http://www.balplan.jp/>) まで。

AD-D / 田中雄一郎 事業主 / (有)バルプラン 建築設計 / (株)ケンテックス 施工 / (株)SAKULAB

田中雄一郎 / Yuichiro Tanaka [www.quadesign-style.com](http://www.quadesign-style.com)  
QUADESIGN style (クオデザインスタイル) 代表

1975年岡山市生まれ。立命館大学理工学部卒業後、都市計画コンサルタントを経て、2004年妻・園子とともにQUA DESIGN style設立。同時にデザインを独学。現在岡山を拠点に活動し、教育・医療機関、公共施設、美術展、交通、建築・建設、農業、アパレル、町など様々な分野のブランディングを手掛ける。主な仕事に岡山大学シンボルデザイン、倉敷市立短期大学ロゴマーク、福武教育文化振興財団CI、ルネスホールVI、宇野バス、岡山後楽園バスVI、まび記念病院、倉敷記念病院HI、出石町VI、野の花農園プロモーションなど。主な賞に東京TDC賞PrizeNominee、JAGDA賞ノミネートなど。共著に「ロゴデザインの現場-事例で学ぶデザイン技法としてのブランディング」(Mdnコーポレーション)

